



愛子さんと長男・優司さん親子がノリ養殖網を摘採する約30年前の様子

FOCUS Vol.72

長洲町でキラリ輝く人たち

漁業振興に尽力し 旭日単光章を受章



津田悦司さん（右から2人目）と妻の愛子さん（左から2人目）

つだ えつし 津田 悦司さん

（宝町 81歳）

ノリ養殖業など、漁業の振興に
捧げた人生

「福岡県や佐賀県に負けないノリを作りたかった」。

津田さんは、中学生の頃に親がノリ養殖業を始めたことをきっかけに、自身も携わることになる。しかし、当時の熊本県のノリ養殖業は、同じ有明海の佐賀県や福岡県に比べ、大きく遅れていたという。

その後、「負けてたまるか」の気持ちを抱いて、長洲漁業協同組合長や県海苔養殖連絡協議会長を務めながら、ノリの養殖業など、漁業の振興に尽力してきた。ノリは長洲町にとって親しみ深い海産物だが、今日に至るまでの道のりは、苦難の連続だったという。

津田さんはこれまで、埋め立て用海砂の採取問題や、諫早湾の干拓など多くの課題と向き合ってきた。赤腐れ病まん延防止のための養殖網の一斉撤去を実施したときは、周囲の強い反発があった。今でも特に印象に残っている出来事の一つという。

そのような津田さんの尽力もあり、現在熊本県は、全国でも有数のノリ養殖地として知られるようになった。

旭日単光章を受章

津田さんはこの度、旭日単光章を受章した。これは、功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた方に授与される勲章である。

津田さんは、「苦勞の多い人生だと

自分で思っていた。しかし、今回受章したことにより、心が一転した。今、本当に幸せを感じる。今まで頑張ってきた甲斐があった」と話した。

これからの漁業に思うこと

「みんなで勉強して協力をしながら有明海を大切にしていってもらいたい。漁業は道具や技術の向上が目覚ましいが、みんなでの話し合いを大切にして、持続可能な漁業を確立していったほしい」とこれからの漁業へ思いを込める。

妻・愛子さんへの思い

そして最後に津田さんはこう語った。「今の自分があるのは妻のおかげです。結婚してからずっと支えてくれた。感謝で一杯です。私の自慢の妻です」。

その目には、うっすらと涙が浮かんでいた。



県海苔養殖連絡協議会長を務め、浅海増殖研究発表全国大会で熊本県が優勝したときの津田さん（中央）



人生を共にしてきた津田さん夫婦